Faculty of Letters

文学部

文学部生の
リアルな！学生生活
vol.17

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

２年次、映画研究会新入生歓迎ブースにて

日帰りツアーで行った、迎賓館赤坂離宮にて

往復４時間の通学でも大丈夫！

大学とプライベート、両方を満喫した学生生活

和田（わだ） 愛美（まなみ）
文学部人文社会学科フランス語文学文化専攻４年
私立中央大学附属横浜高校（神奈川県）出身

興味を追求し続けた学生生活

私は、大学生活で自分のやりたいことを素直にやってきました。仏文専攻の1年次はクラス単位での授業が多いため友人と楽しく学ぶことができますが、2年次以降からは選択授業が増えます。友人と同じ授業を履修することも考えましたが、映画論や美術史、神話学など、自分が興味を持って学びたいと思う授業を選びました。やはり、ほとんどの授業を一人で受けることになりましたが、その分集中して学ぶことができ、たまに会う友人の優しさもより深く感じられました。また、文学部ではほかの専攻科目の授業も受けられるため、さまざまな知識を学ぶことができます。私は授業内容を重視して選んでいたため、毎回の予習やレポート提出、成績評価の基準など、気をつけなければならないことが多くてとても大変でした。しかし、興味のある分野であり、自分で選んだからこそ最後までやり切れたのだと思います。

大学ではある程度自分で時間割を組み立てられます。私は、3年生になって初めて木曜日が休日になりました。この貴重な平日の休みを有効に使おうと、映画館や美術館に行ったり、日帰りツアーを予約したり、母親と買い物に行ったり……。いろいろな所へ出かけるよう心がけました。そのなかでも印象に残っている場所は、日帰りツアーで行った迎賓館です。ヨーロッパの宮殿のようなのに、日本らしさが漂っている。そんな素敵な空間でした。特に、今にもこぼれ落ちそうなバラの花が描かれた天井画は、ずっと見ていたいと思うほどきれいでした。また、私が所属している西洋美術史ゼミでの学びが、多少なりとも役立ったことがとてもうれしかったです。

想定外だったサークル活動

私は映画研究会に所属しています。入部したきっかけは「映画を観ることが好き」というごく普通の理由でした。私はサークルの人たちと映画を観て、感想を話し合う日をワクワクして待っていたのですが……。なんと、この映画研究会は自主製作映画に力を入れていたのです！ 新入生歓迎の時期にパーティーなどのイベントに参加しつつも、在籍生とじっくり話せるブースには行かず、活動内容を把握していなかった自分にあきれました。正直なところ、自主製作映画にはほとんど興味がなかったのですが、「映画は一人でも観られるし、これも何かの縁だ」と思い、夏合宿やイベントに積極的に参加しました。そのおかげか、1年次の秋に自門祭で流す映画の主人公を演じることになりました。締め切りが迫るなか、授業の合間や放課後遅くまで残って作り上げた初めての自主制作映画にとても感動しました。この映画がきっかけで仲良くなった最高の友人や、携わってきた映画撮影の濃い時間を思う

From the Faculty of Letters 文学部だより

自立への アプローチ

文学部事務室
行武（ゆくたけ） 明子（あきこ）

「将来何がしたいのかわからない」、そんな言葉をたくさん聴いてきました。私は昨年7月に文学部事務室に異動してきました。それまでは学生相談室に10年間勤務し、学生からあらゆる相談を受けてきたのですが、特にこのような相談が多かったように思います。

学年によってこの言葉の意味が変わってくるように感じます。1年生には「やりたいことが明確な子はそんなに多くない、まずこの1年間は、大学生活に慣れよう」、2年生には「慣れたところで、勉強以外に興味や関心を持てる活動に積極的にチャレンジしてみよう」、3年生には「やりたいと思うことの情報をたくさん収集しよう」と伝えていました。4年生になると周囲に内定が出始めてくるのですが、その時点でまだ「やりたいことがわからない」と言われた時には、一緒に頭を悩ませたものです。

成功体験や失敗を積み重ねることによって成長し、やりたいことが見つかっていくことも多いです。将来を見据え、視野を広げるために、段階的に準備をしていくことをお勧めします。文学部はもちろんのこと、学内ではさまざまな取り組みをしています。本学にある資源を大いに活用し、社会に出る準備をしてもらえたら嬉しく思います。

ご父母の皆さまにも温かく見守っていただき、過度に心配し過ぎることなく、相談された時にはまずご子女と一緒に考えてみてください。そして、ご子女が進む道を見つけたその時、ご父母の皆さまも肩の荷を下ろしていただけたらと思います。

と、このサークルを続けてきてよかったと心の底から思っています！

最後に

私は留学やボランティア活動といった大きなことはしていませんが、それでも充実した毎日と、一生ものの思い出をこの中央大学文学部で手に入れることができました。楽（ラク）なことではなく、楽しいことを。そしてどんな出会いも大事にすること。これからもこの二つを常に考えてがんばっていきたいと思います。

映画研究会で初めて行った、千葉での夏合宿

友人と草間彌生さんの作品を前に（右が筆者）